

<一般社団法人福島県法人会連合会会長賞>

未来に繋ぐ子供への税

白河市立白河第二中学校 3年 小林 愛來

「なぜお金を払っているのだろう。」

母が体調を崩し病院に付き添った際に思った。なぜ私が体調を崩し薬をもらってもお金を払っていないのに母はお金を払って薬をもらっているのだろうと。母に尋ねると子供は高校卒業までは医療費を払わなくていいと教えてもらった。私はずっと病院はお金を払わなくてよい場所だと思っていた。初めて医療費を払わなくてよいのは子供だけであるということを知ったと同時に子供を持つお父さん、お母さんはその制度にとっても助けられていることも知った。私が知らないだけで他にも子供のために使われている税金がもっとあるのではないかと思い調べてみると医療費無償の他に二つのことがされていた。

一つ目は、毎月子ども一人に1万円から1万5,000円が配布されていることである。この制度を児童手当といい、年齢によって配布される金額が異なる。生まれてから2歳までは1万5,000円、3歳から中学校卒業までは1万円をもらうことができ、使い道は人それぞれであるが学習塾などの習い事や大学進学のための貯金など知らぬ間に私たちの生活の支えとなっていたことを知った。

二つ目は小中学校で使用される教科書が国から無償配布されていることである。国民全体の次代を担う子供たちへの思いや願いが込められていることや税金がなければ学校で使用する教科書、机、椅子、教材なども自己負担になってしまうことを改めて実感した。

当たり前だと思っていたことや知らずにいたことが全て税金に支えられていることを知った。さらに税金を払っているのは私たちの親や祖父母であり、大人の支えなしでは生きていくことができないと思った。現在日本は少子高齢化が進み、未来の日本を担う子供が減少するという事態に陥っている。そこで政府は課題として子育て支

援施策の充実、多子世帯への配慮、地域の実情に即した取組強化などを挙げている。これらは全てこれからの日本を支えていく子供に対しての投資のようなものであり、そのおかげで私達は不自由なく勉強に励めたり元気よく運動ができたりと健康で充実した生活が送れている。病院での出来事がなければ大人になるまで気づかなかったかもしれない。この生活が送れていることを当たり前だと思わずに、今大人がしてくれていることを今度は私たち子供が大人になった時に未来の子供たちにしてあげようと思った。